



次世代型緊急洪水防護システム

【ボックスウォール】

ガデリウス・インダストリー株式会社
産業機材事業部

近年増加している局地的な集中豪雨、例年発生する洪水被害ですが、どのような対策を取られていますか？

従来の土のうによる積立状況



土のう備蓄庫よりトラックに載せ、現場に向かい、降ろし、3～4人で堤防を積み立てるまでは2時間以上。



悪条件の中、100袋の土のうを積立て、マンホールから溢水しない事もある。翌朝水を吸って重くなった土のうは道路解放の為すぐに撤去しなければならない。
基本的に使った土のうは産業廃棄物となる。

保管スペース・作業人員と時間・廃棄処理が大きな問題！

次世代型緊急洪水防護システム「ボックスウォール」とは？

■特徴■

1. 10mを2名、2分で設置、軽量化による高い機動性

ボックスウォールのユニットは、3.4kgと**軽量**。1チーム(2名)で10mを約2分間で設置出来、短時間で広範囲の展開が可能。瞬間的に襲ってくるゲリラ豪雨の特性に対し**初動までの決断が早く**、撤収も容易に出来るので、対処において**精神的負担が少ない**。

2. 特別な技能や特殊工具不要、地面に置くだけで高齢者や女性でも設置可能

ユニット化されたボックスウォールは、取扱いが容易で、ジョイント部分を接続し、**地面に置くだけで**、洪水防護の展開ができる。また、**工具やスキルを一切必要としない**。

3. 水圧を利用して洪水を堰き止める

ボックスウォールは、かかる**水圧**により固定され、止水します。そのため**建物に傷を付けることもなく**、アンカーボルト等による地面への固定は一切必要ない。

4. 高い運用実効性

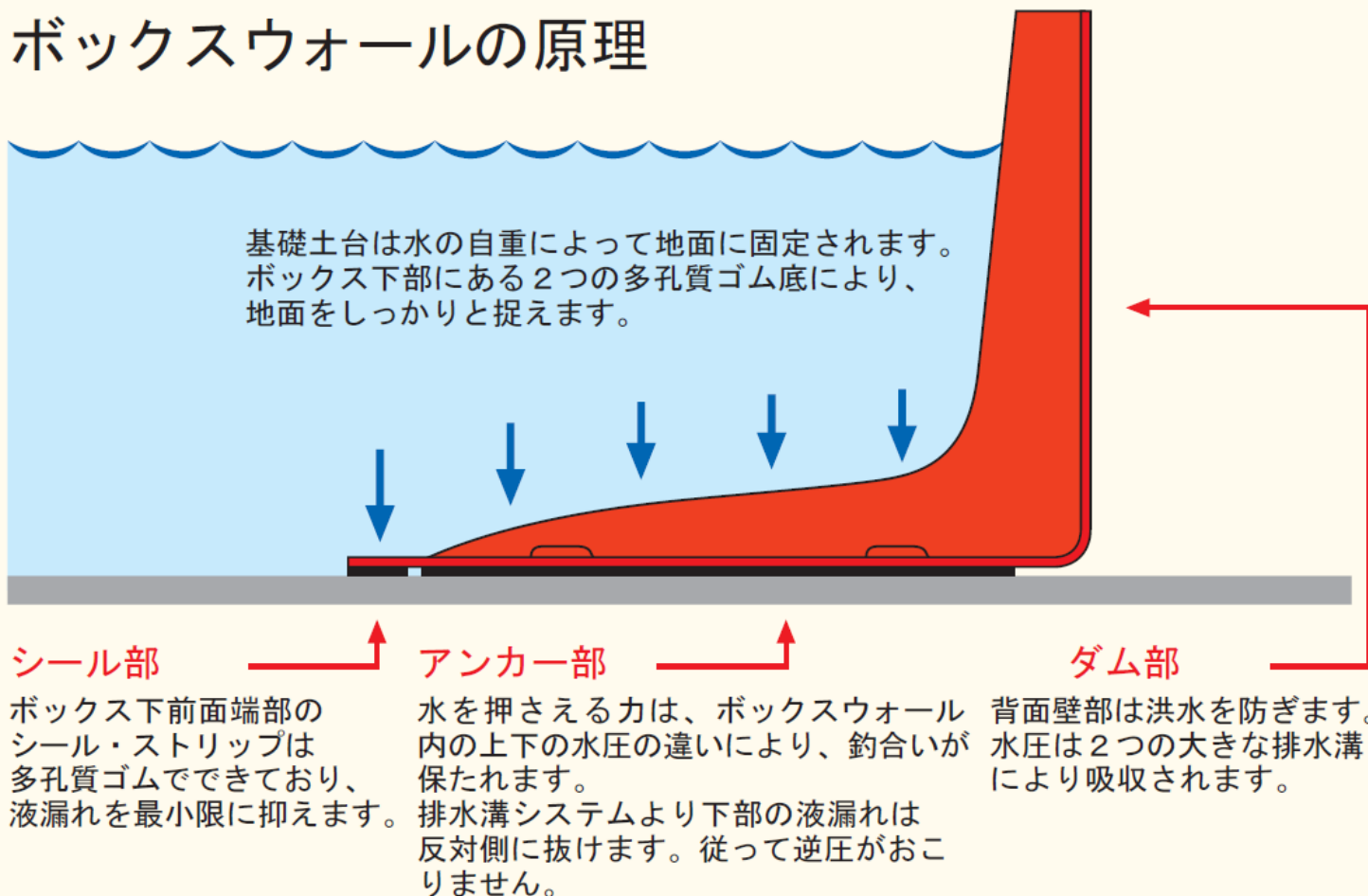
ボックスウォールは、設置、撤収が簡便なため、**実行する人を選ばない**。機械式や重量のある防水板を導入されていても、**実行者が高齢化**していて実際に運用が出来ないところに採用されている。

5. 省スペース保管管理と高い費用対効果

ボックスウォールは個々を重ねられるので、約10mの設置展開分のユニット(16枚)をコンパクトに収納できる。また、簡単な洗浄で**繰り返しの使用が可能**。

次世代型緊急洪水防護システム「ボックスウォール」とは？

ボックスウォールの原理



ボックスウォール底面部



導入事例①



導入事例②



■ ボックスウォール保管・運搬用台車 事例



LWH:1.23 x 0.8 x 1.27m



26枚のボックスウォールの積載が可能。
保管も兼用



上段にボックス若しくは、付属部材を積載可能。



2輪台車

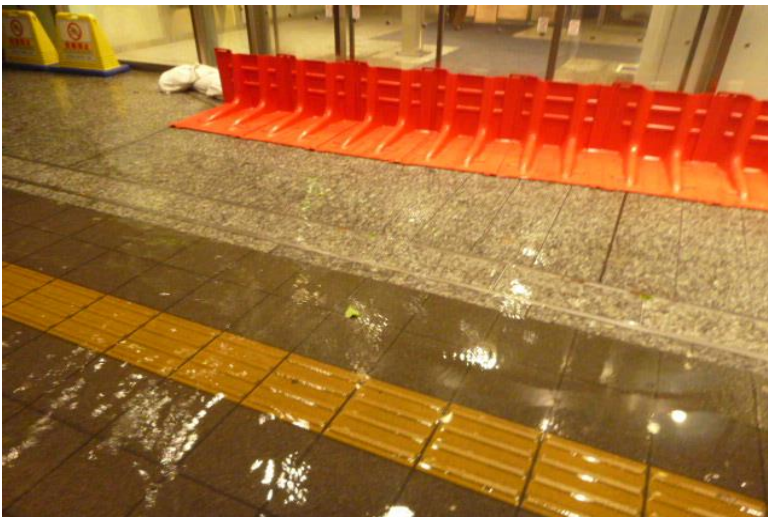


その他台車事例

浸水事例（千葉県船橋市）



浸水事例（宮城県仙台市）



他社製品の運用風景



他社製品の運用風景



便利な装置も...

